

宍粟の近代の幕開け

宍粟市が市制十周年を迎えた平成二十七年(二〇一五)は、元和元年(一六一五)の池田輝澄による宍粟立藩から四〇〇年にあたり、本欄ではそれに因んで江戸時代の宍粟に関する話題を連載してきました。前回紹介された文久三年(一八六三)の「生野の変」は、宍粟の江戸時代の終焉と近代の幕開けを予感させる出来事といえるでしょう。

各地での倒幕運動が高まる中、慶応三年(一八六七)十月十四日、十五代将軍徳川慶喜は朝廷に政権の返上を申し出て(大政奉還)、次いで十二月九日には王政復古の大号令が発せられました。翌年(一八六八)九月八日には、慶応から明治に改元され、ここに名実ともに文明開化に象徴される明治時代の幕が開かれることとなります。

明治二年(一八六九)六月、明治新政府は中央集権化の施策として、諸藩の藩主から土地(版)と人民(籍)を朝廷に還納させる「版籍奉還」を



山崎知藩事印
(『山崎町史』)

実施しています。幕末から明治維新時の宍粟市域は、山崎の一部、一宮の北部、波賀・千種の全域からなる幕府の直轄領(天領)と、山崎藩、尼崎藩、三日月藩、安志藩の私藩領に分かれていました。山崎藩では、直ちに版籍奉還に応じ、九代藩主本多忠明はそのまま山崎知藩事に任命されています。

次いで明治四年(一八七一)七月の廃藩置県により私藩は廃止され、旧藩は山崎県、尼崎県、三日月県、安志県へと引き継がれ、知藩事は罷免されて東京へ移住となり、代わって県知事(県令)が中央から派遣されてきました。相前後して、旧幕府の直轄領は生野県、兵庫県に再編されています。

さらに同年十一月二日には、宍粟を含む播磨地域は姫路県に統合されましたが、わずか一週間後の十一月九日には飾磨県と改称されました。明治五年(一八七二)六月の大区小区制によって、飾磨県は十六大区に分けられ、宍粟郡は第十六大区、区内は九小区に編成されています。その後、明治九年(一八七六)八月二十一日、兵庫県と飾磨県が統合されてほぼ現在の範囲の兵庫県となりました。

大区小区制は明治十一年(一八七八)の郡区町村編制法により廃止され、郡役所が設置されました。明治二十二年(一八八九)の町村制の施行によって、宍粟郡は一町十八村と



宍粟郡役所(『兵庫県宍粟郡誌』)

なり、昭和三十年代の合併まで引き継がれることとなります。このように明治時代前期の地方行政はめまぐるしく変転するとともに、土地・税制・戸籍・産業・通信・教育・文化などあらゆる分野の施策が矢継ぎ早に推し進められていきました。

兵庫県では、明治二十九年(一八九六)に郡制が実施されますが、兵庫県公館県政資料館には、明治十二年(一八七九)から大正十五年(一九二六)までの「宍粟郡役所文書」が保存されています。この時代の地方自治や、宍粟の近代の歴史文化を知るうえで全国的にも貴重な資料とされています。

本年度の「宍粟 歴史 再発見」では、現在の宍粟市の発展の礎が築かれた近代をめぐるさまざまな話題を提供していく予定にしています。

(社会教育文化財課)

編集後記

春は出会いと別れの季節です。秘書広報課も \square に替わり、新たに \blacktriangle が加わりました。これから、新しいメンバーで広報しそうを作っていきます。よろしくお祈いします。さて、29ページにも紹介しているとおり、一宮北部の3小学校が長い歴史に幕を閉じました。それぞれの学校で、子どもたちや学校、地域への熱い思いあふれる感動的な閉校式が行われました。そして、この号が出るころには、一宮北小学校が開校し、3校の子どもたちは新しい仲間と出会い、新しい学校生活をスタートさせています。人との出会いを大切に、お互いを高めあって、大きく成長して欲しいですね。

\square